

科目名		授業形態	担当教員名	
社会福祉学		講義	棚野 恭範	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間 （ 2 単位）		15 回	1 年次	後期
授業の目的・概要				
1. 実践現場（医療・福祉等）における視能訓練士の役割りとして、個別援助サービスを展開する場合、対象者の抱える多様な福祉課題を認識し、対象者を人間としてのトータルな視点を有することが必要である。2. 社会福祉は、生活上の福祉課題を明らかにし、リハビリテーション・ノーマライゼーションの理念のもと、人間が人間として相応し生活を営む権利を保障していくことである。これは老若男女を問わず人間一人ひとりが当事者性を認識することが肝要である。以上を受けて、障害者・高齢者福祉他を中心に基本的な社会福祉の視点を始め、概論・各論について現況・課題、制度とサービスについて事例を多く紹介し、実践学として社会福祉を身近なものとし、又自分自身の問題とするための内容としたい。				
授業の到達目標				
社会福祉で習得する知識をロービジョン学に発展させる。 障害者・児童・高齢者などの支援に関係する社会福祉の法律や制度について理解をする。				
授業計画				
回	内容			
1	総論Ⅰ 社会福祉学を学ぶ意味、社会福祉の歩み			
2	総論Ⅱ 社会福祉関連法と施設・機関・福祉専門職・キーワード			
3	地域福祉Ⅰ 地域を取りまく課題、地域福祉とは			
4	地域福祉Ⅱ ボランティア活動、阪神淡路大震災と災害ボランティア			
5	グループワークⅠ 社会福祉を考える			
6	社会保障制度Ⅰ 社会保障制度の現状と課題、生活困窮			
7	社会保障制度Ⅱ 生活保護制度、課題解決と法律・制度			
8	子ども家庭福祉Ⅰ 子ども家庭福祉、課題解決と法律・制度・社会資源			
9	子ども家庭福祉Ⅱ 子どもを取りまく現状と課題、ヤングケアラーとは			
10	障がい者福祉Ⅰ 障がい者福祉、課題解決と法律・制度・社会資源			
11	障がい者福祉Ⅱ 障がい者を取りまく現状と課題			
12	高齢者福祉Ⅰ 高齢社会の現状と課題			
13	高齢者福祉Ⅱ 要援護高齢者と介護問題、地域包括ケアシステム、介護保険制度			
14	グループワークⅡ 福祉課題の検討			
15	社会福祉学まとめ			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	100%	社会福祉全般にわたる理解内容を評価基準とする		
レポート・課題				
小テスト				
平常点				
その他				
自由記載				
教科書				
書名		著者・編集者名	出版社名	
よくわかる社会福祉 第11版		山縣文治・岡田忠克 編	ミネルヴァ書房	
自由記載	レジメ・講義（参考）資料を配付する			
参考文献				
書名		著者・編集者名	出版社名	
特に指定しない				
自由記載				
備考				